

GIGAスクール構想 児童・生徒1人1台パソコン整備 ～多様な子供たちを「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現～

1 GIGAスクール構想の背景

- Society 5.0 時代を生きる力を培うため、また多様な子供たちの学びを支援するため、児童・生徒一人ひとりの資質・能力を最大限育成できる学びが求められている
- OECD で実施された学習到達度 2018 年調査（PISA）において、日本の順位が低下し、その原因が学校におけるデジタル機器の利用時間の短さに起因していると分析された
- これらを受け新学習指導要領において、情報活用能力を言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づけた

2 導入効果

- 児童・生徒一人ひとりの学習の進捗に合わせ、自ら主体的に補充・発展学習に取り組むことが可能となる
- 長期休業中の家庭における補充学習が充実し、さらには児童・生徒の学習の進捗状況の確認や生活指導・学習相談等にきめ細かく対応できるようになる
- 今回のような臨時休業時において、オンラインによる充実した学習指導や生活指導が可能となる
- 不登校傾向の児童・生徒が増加している中、学校以外の学びの場が提供できる。

3 活用

- パソコンについては、小3～6年生、中1～3年生は家庭管理とし、授業及び家庭学習で活用
- インターネットを利用した学習課題の調べ学習に活用
- 小1、2年生は学校で管理し、授業で活用
- 学校からの通知、連絡に活用
- 長期休業および臨時休業期間においては、学習指導および生活指導に活用
- 文部科学省ホームページ等に掲載されている教材や動画を利用した学習に活用

4 導入スケジュール

① 令和2年度

- ◇ 約 9,100 台の小4～6年生・中1～3年生用のパソコン及び教員用パソコンを整備予定
- ◇ 整備費用は、6月議会に上程予定

②令和3年度

- ◇ 約 4,100 台の小1～3年生用のパソコンを整備予定
- ◇ 低学年（小1・2年生）用のパソコン保管庫を整備予定
- ◇ 整備費用は、令和3年度当初予算に計上予定

5. 今後の課題

①導入ソフトの検討

- ◇ 1人1台端末のOSに適合した、今年度導入予定のプログラム教育用ソフト、授業支援ソフト・教材ソフト、電子教科書について、学校と協議して選定を進める

②セキュリティの確保

- ◇ 家庭での端末利用における事件・事故を未然防止するため、フィルタリングソフトや、物損保険を導入し、家庭のSNSルールの作成と保護者への周知徹底、学校での児童・生徒の教育・指導を行う

③端末の管理・システムの管理運営

- ◇ 児童・生徒及び教職員用を含め約13,000台の端末の管理が必要となる
- ◇ 児童・生徒、教職員、教育部担当者のアカウントの管理・更新(年度・随時)作業が生じる
- ◇ 児童・生徒がパスワードを忘れた場合、端末故障時、動作不具合の対応が必要となる
- ◇ 端末管理・システムの管理運営について人的対応が必要となる

④操作の習熟度の向上

- ◇ OSに応じた端末の使用方法、ソフトの活用方法等について習熟するための教職員の研修、児童・生徒の指導を行う